



怒
その1

申15号

コロナ禍を乗り越え3期ぶりに黒字転換した努力に報い、組合員・社員と家族が安心して生活できる環境の実現をめざす2023年度夏季手当等に関する緊急再申し入れ

再考を求めるとも、最終回答



6月7日の申13号会社回答を受けて以降の緊急アンケートを実施。

納得感がない**86.6%**の声という結果も出ている！**再考すべきだ！**

【JR東労組からの主な主張】

- ・精力的に向き合ってきたが、**納得感がないだけでなく、業績が回復してもコロナ前の手当水準に戻さないのではと職場が疑念を抱いていることに強い危機感を持っている。**
- ・努力は受け止めるとするも、「総合的に勘案」「最大限の回答」と繰り返され、交渉で数字的根拠など中身が示されない。だから職場で一部管理者が間違った認識で職場の意見を抑え込もうとする事象が出ていると認識した。
- ・回答書も「経営側の目線・主張」で抑え込んでいるかのように受け取れる。**本当に現場の声が届いているのか疑問だ。**組合員から「経営側と現場の認識の違い・溝の深さを感じる」と提起があった。
- ・「心身ともに会社離れ」が加速している強い危機感のもと、JR東労組としてこの溝を埋める努力を惜しまず労使交渉に向き合うスタンスは変わらない。
- ・昨年の年末手当当時の議論で、企業の発展にゴールはないが、節目はあるだろうと議論してきた。約3年間のコロナ禍を乗り越え、3期ぶりの黒字転換の実現のもとの夏季手当の交渉は大きな節目である。経営の姿勢が現れたと認識している。
- ・**再考を求めたが「最終回答」「最大限の回答」と経営判断を変えようとしないうるな姿勢に強い問題意識を持った。**

【会社からの回答】

- ・組織内で議論して判断されると言われたが、**会社として前回示した通りである。**
- ・本日もアンケートの声としていただいた声はしっかりと受け止める。
- ・期末手当は会社の業績状況を踏まえて判断する。コロナ禍の社員みなさんの尽力・努力があって乗り越えて黒字化ができた。物価上昇分について本来は期末手当ではないが、その点も考慮している。
- ・回答内容については、言葉を尽くして説明していくこと、社員のみなさんに理解していただくように伝えていくことをしていく。
- ・公共性の高い事業体として、継続して事業運営をしていくにあたり社員への投資やコストのバランスを考えることは非常に大事なこと。会社として継続して事業運営をしていかないといけないことを考えて都度判断している。
 - ・**期末手当の考え方は変わらない。**
 - ・**コロナ禍だから変わったのではなく、社会環境の変化のスピードが変わった。その中で頑張ろうと応えている社員に感謝している。**
- ・**会社として経営状況を踏まえ総合的に勘案して最大限の回答をした。**会社の回答を受け止めて頂きたい。

席上妥結せず、代表者会議を開催して判断していきます！